

捨てずに つかう



使用済みペットボトル 再びペットボトルに

日本が世界に誇るペットボトルのリサイクルで、近年注目を集めている新たな取り組みが「ボトルtoボトル」水平リサイクル。使用済みペットボトルを新たなペットボトルへ再生するボトルtoボトルは、資源の有効利用や二酸化炭素排出抑制の点からも理想的なリサイクル手法です。

2022年度、国内で販売された指定ペットボトルのうち、ボトルtoボトルでリサイクルされたのは29%※で、前年比約9%増加しました。

ボトルtoボトル 町や空港でも

益城町は、令和4年11月、嘉島町、西原村と共にサントリーグループとボトルtoボトルに関する協定を結び、各家庭から回収したペットボトルをペットボトルに再生する取り組みを進めています。令和5年6月には、阿蘇くまもと空港を運営する熊本国際空港(株)、サントリーグループとも協定を締結し、空港で回収したペットボトルも同様にリサイクルを行っています。

各家庭や空港から回収したペットボトルは、益城クリーン

1年間のペットボトル回収量

回収場所	回収量 (トン)	期間
町内	119.3	(2023年度)
空港	18.8	(2023年5月25日～2024年5月24日)



右/阿蘇くまもと空港に設置されているオリジナルのペットボトル回収ボックス



益城クリーンセンターでの選別作業
上/手作業でふたを取る
右/ペットボトルをつぶして再生処理事業者へ



ンセンターに運び込まれ、手作業で選別されます。そこで活躍しているのが、シルバー人材センターの会員たち。10人が2班に分かれ、一つ一つふたを取り、リサイクルの対象でないものや汚れが強いものなどを取り除いた後、機械でつぶし固め、水俣市の再生処理事業者へ引き渡します。

再生処理事業者によって粉碎・洗浄、再商品化製品利用事業者によってペットボトルに再生され、国内で循環しています。

※出典…PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2023」

Interview

オリジナルボックスで 環境意識の向上を

熊本国際空港株式会社
総務・経理部 おおぐし 大串えりさん



阿蘇くまもと空港では、ピクトグラムの表示で分別を促すオリジナル回収ボックスを9カ所に設置し、協定締結に先駆け、2023年5月25日から回収を始めました。ボトルtoボトルは、空港が重要課題として「環境への配慮」の解決にも寄与できる取り組みです。循環型社会の実現に向け、空港をご利用いただくお客さまや、空港で働く全ての人の目に留まることで、環境意識の向上につなげたいと考えています。



ふたと
ラベルを
外して
すすいでね！

